

魔法の宿題 プロジェクト 活動報告書

報告者氏名：堀田 文雄

所属：大分県立臼杵支援学校

記録日：2016年2月2日

キーワード：「知的障がい」、「社会生活」、「コミュニケーション」困難の補助

【対象幼児児童生徒の情報】

・学年 高等部2年

・障がい名 知的障がい

・障がいと困難の内容

- ・自分から教師や友だちに挨拶をするなど積極的に関わろうとする。
- ・語彙数が少なく会話が続かないなどのコミュニケーションに課題がある。
- ・発音が不明瞭な点があり、何度か尋ねるとその場から離れてしまうことがある。

【活動目的】

・当初のねらい

「自分が話したいことを、写真を用いて相手に伝える」

話したいという思いの強い生徒であるが、上手く伝わらずあきらめてしまうことが多く見られている。そこで、情報端末機器を使って、より円滑なコミュニケーションをめざす。

・実施期間 平成27年6月～平成28年1月

・実施者 堀田文雄(教諭)

・実施者と対象幼児児童生徒の関係 学級担任

・使用アプリ

写真・・・既存のアプリ(無料)

カメラ・・・既存のアプリ(無料)

スカイプ・・・(無料)



【活動内容と対象児(群)の変化】

・対象児(群)の事前の状況

- ・自分の話したいことがあるときには、教師に近づいてきて、「なあなあ」など自分から話しかけるが、内容について詳しく尋ねると、しばらく黙ったあと離れていく。
- ・学校であった出来事を自分から話すことが少なく、保護者が生徒に尋ねると黙っている。
- ・帰りの会において「今日、サーキットトレーニング(又は体育)をしました。楽しかったです。」と決まった言い方をし、それ以外のことについて尋ねても「わからない」と答える。
- ・学校生活のアルバムを見て、「あ、おれ」「○○君だ」「(だいこん)とった」など、写真に写っている物に興味を持って話す。
- ・昼休みに教師がパソコンを起動させておくと、自分で YouTube を立ち上げて検索欄に「ur」と入力して検索履歴の中から「ウルトラマン」を選択して、動画を見る。

・活動の具体的内容

生徒の学び取りの傾向から、5つの段階で取り組んだ。

1段階 「写真について話そう」(6月～)

教師が撮影した写真を見て、体験したことを簡単な言葉で相手に伝える。

現場実習の期間、教師が巡回指導に行った際に作業している様子を撮影し、勤務時間終了後に写真を見ながら仕事内容について教師に伝える取り組みを行った。

教師が「今日何をしたの?」と問うと、「梅をわけた」とだけ繰り返していたが、教師が撮影した写真(※写真-1)を見て、再度問うと、写真を見ながら「梅を葉っぱに分けた」とさらに詳しく作業内容を伝えることができた。



※写真-1

2段階 「写真を選んで話そう」(6月22日～)

教師が撮影した写真の中から自分が印象に残った写真を選択して、体験したことを思い出して伝える。

帰りの会の中で自分が印象に残った写真を選択して、その事について思い出し、クラスの人々に伝える取り組みを行った。毎日行う中で、以下の様子が見られるようになった。

・作業学習の写真(※写真-2)を選び「ミキサーをしました」と話した。教師が「何分、回したのですか?」との問いかけると、写真を見て少し考えた後に「7分」と思い出す様子が見られた。

・「体育の時間で走りました、楽しかったです」と伝えたあと、教師が「誰と走りましたか?」と聞いた時に写真を確認して「〇〇くん」と答えることができた。(※写真-3)



※写真-2

3段階 「写真を見て思い出し、たくさんの人に話そう」(7月～)

想起する間隔を延ばし、学校外の家族や施設職員に写真を見せて、自分が体験した事を思い出して伝える。

伝える対象を広げるため夏休み中を利用し、家庭や施設職員に理解と協力をいただいた上で、学校外でiPadの使用した。

・現場実習での様子を家族に話す。

教師が夏休み中の現場実習の様子を撮影し、迎えにきたおばあちゃんに「今日、何をした

のかをおばあちゃんに話したら」とうながした。写真が無い状態で話す場合では、「草を」「草でやって」「草をとってしました」と何度も言い直し、おばあちゃんが「草取りしたの」と聞かれて「はい」と答えた。教師が写真を見せて話すように促すと「トラックまでに、草を運んだ」「こっちから」と草取りだけでなく、その草取りの周囲の状況を加えて話すことができた。(※写真-4, 5)

・施設職員に家族旅行の話をする。

夏休みに家族旅行に出かける際、写真撮影を母親に依頼した。その写真を持ってデイサービスの職員の方に思い出の話をする事とした。写真が無い状態では、「夏休みは何をしましたか?」の問いかけに「わからん」と答えていた。職員から「どこか行ったの?」「誰と行ったの?」と問いかけられ、質問に答えたが、それ以上の会話が膨らむことは無かった。そこで、教師が「家族旅行の様子を写真を見せて話したら」と促すと、自分から次々と写真をスライドして「〇〇した」、というように話し会話が盛り上がる様子が見られた。



※写真-3



※写真-4



※写真-5

4段階 「撮影してみよう」 (9月～)

教師と一緒に撮影し、その写真について話す。

授業の中で、自分が好きな事や興味があることについて写真を撮るように促し、その写真について帰りの会などで話す取り組みを行った。

撮影している様子を見ると、手が震え写真ぼやけることが多く、さらには本人からも重たいという言葉があった。またこの時期に保護者から家庭で使っていないスマートフォンを活用し、修学旅行に行った時に撮影してほしいという希望もあった。そこで、この段階からスマートフォンを使用することとした。

修学旅行の事前学習で見学する場所をインターネットで調べる授業では、好きなカブトムシが表示されたので、教師が「好きなら、発表したらどう」と言葉かけをして写真を撮るようにうながした。すると、ポケットからすぐにスマートフォンを取り出して撮影した。その写真を友だちにみせ、「小さいのメス」、「おっきのがオス」また「おおくわがた」と興味があることについて話すことができた。(※写真-6)



※写真-6

5段階 「伝えたい事を撮影して話そう」 (11月～)

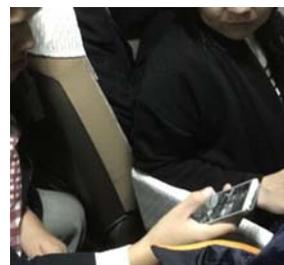
自分で伝えたい事を撮影し、自分から伝えたいことを話す。

修学旅行中に、自分で写真を撮り、その体験を伝える取り組みを行った。

修学旅行では、教師が記念撮影をしようとする、「俺が撮る」と言って、ポケットからすぐにスマートフォンを取り出して撮影した(※写真-7)。また、違う班の教師に自分から「これ見た」と巨大化石の写真を見せて話すことができ、他に大きな恐竜の化石の話もすることができた(※写真-8)。



※写真-7



※写真-8

・対象児の事後の変化

現在、スマートフォンをいつも携帯し、クラスの友だちの遊んでいる様子を撮影して、その写真を家庭で見せるなど家庭でも学校の様子を積極的に話す姿が見られている。さらに1月の現場実習で入所した際に「部屋で何をしてるの」と問いかけると、スマートフォンを取り出して、部屋で撮影した好きなサッカーTVの動画を見せて話してくれたりするなど、スマートフォンの使い方が広がってきている。(※写真-9)

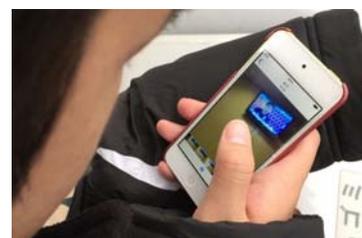


写真-9

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

本人が写真を使って話す事で「伝わった」という実感をもって、対象生徒の表情や会話をする言葉の様子から、さらに「もっと伝えたい」という思いになったのではないか。

・エビデンス(具体的数値など)

「伝わった！」

「プールで怪我した」と伝えてくるが、教師が「プールのどこで、どうやって怪我をしたの」と尋ねても「痛かった、〇〇君がした」と言うばかりで、怪我をした状況を答える事が難しかった。iPadでその日の写真を見ていると、「ここです」と怪我をした場所を写真で指さして伝えることができた。教師が「このフェンスで怪我をしたんだね、よく分かったよ」と言うと、「うんうん」と嬉しそうな表情をした。(※写真-10)

↓ 怪我をした場所



※写真-10



※写真-11

「もっと伝えたい！」

・二学期の始業式で思い出の発表をした祭(※写真-11)、大釣り橋の前での家族写真を見せた。「みんなで橋を渡りました」と話し、教師が「どの橋ですか」と言葉かけをすると、「これです」と橋をピンチアウトし大きく拡大して示した。さらに「この橋、怖いです」とその時の気持ちを交えて伝える事ができた。(※写真-12)



※写真-12

・公開授業で、夏休みに家族と魚釣りに行ったことを発表した。「お父さんと釣りました」と話し、教師が「お父さんはどこですか」の言葉かけをすると、父さんをピンチアウトして拡大し、「黄色の帽子がお父さん。魚釣れなかった。悔しい。」と伝えることができた。

・11月に避難訓練で地震体験車が学校に来た。車が好きな事や、また友だちが乗って揺れている様子にとっても興味を示して、自分のポケットからスマートフォンをすぐに取り出して、夢中になって撮影していた。帰りの会の発表で「〇〇先生が揺れてて面白かった」と話した。

(※写真-13)

・ベランダに置いてある木製の椅子に傷がついているのを撮影し「河童がした」と教師に伝えにきた。その話を聞いた教師が大笑いし、会話が盛り上がった。



※写真-13

・その他のエピソード(画像などを含めて)

○エピソード1(やっぱりそうか、覚えた)

調理実習において自分で玉ねぎを4等分に切る場面があった。前回の授業で撮った動画を見て切り方を確認した。二回動画を見て、手を包丁に見立てながら切り方を真似て、「やっぱりそうか」と言って一人で切ることができた。(※写真-13)

○エピソード2((返事が)きたー！)

修学旅行中に自分が写真を遠くにいる母に見せたいという様子が見られたため、スカイプの使い方を教えて、写真を送信した。母からの返事を期待して待ち、返事が来た時には「きた」と嬉しい表情をした。離れた人にも自分の体験を伝えることができた。(※写真-14)

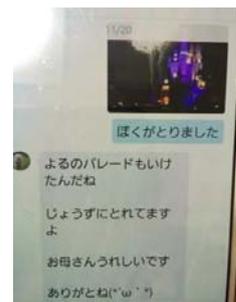


写真-14

○エピソード3(これ便利！)

連絡帳の記入の際に、自分で日課表をスマートフォンで撮影し、机上に座って必要な部分をピンチアウトして連絡帳に書き込む姿がみられた。(※写真-15、16、17)

【今後の見通し】

・卒業後の生活の質を向上させるために、写真や動画などを本人が活用して生活していくことの習慣化する。

・自らスマートフォンの写真・動画(アルバム)の整理をして、相手に伝えることができる。

対象生徒が今後、自分で活用が考えられる部分として以下のことを考えている。

・**危機管理**: 事故にあった時に写真を撮影し、その時の状況を保護者や周囲の人に知らせる。

・**生活管理**: 日常生活用品や、チラシ等を撮影し買い物の際に活用する。

・**健康管理**: 自分の状態を自撮りして、健康状態を保護者に知らせる。(1月実施 ※写真-18)

・**情報管理**: 郵便物や相手の名前や顔、自宅の住所や電話番号、などを撮影。情報を引き出して、現在の生活に活用する。



※写真-17
日課表を撮影



※写真-15
ピンチアウトして拡大



※写真-16
見て連絡帳に書き込む



※写真-18
自撮り